

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104245		
法人名	有限会社 厚生ライフ長崎		
事業所名	グループホーム鳴見ヶ丘		
所在地	長崎県長崎市鳴見町368		
自己評価作成日	平成29年5月10日	評価結果市町村受理日	平成29年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様の自尊心を大切に支援を行う。・温かで家庭的な安らぎのある環境作りに徹する。・自然の中で地域の方との交流を持てるよう支援する。・ターミナルケアに取り組んでいる。・個別ケアの実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは年1回家族アンケートを実施し、家族の意見・要望の抽出に努めており、食事のメニューを知りたいという要望に献立表を送付することにするなど反映している。ホームの特色として、毎月1回消防計画表に沿って訓練を行っており、火災だけではなく地震、防犯、AEDの操作等を実施しており、防災への意識が高いことは優れた点といえる。また、社内全体で委員会活動や勉強会を定期的に行っており、今年度からスーパーバイザーの仕組みを立ち上げている。利用者の生活で楽しみとなる食事は、1階のデイサービス厨房にて調理しており、職員は検食簿に記録し、給食委員会で検討している。また、ホームでは限られた職員数でありながら、秋祭りや外出レク、屋内レク等を企画し、利用者が毎日を楽しく過ごせるよう工夫していることがわかる。理念に掲げる温かい雰囲気の中でゆったりと暮らせるよう、そして利用者が安心して生活できるよう全職員が支援に努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念とは別に、グループホームの理念を作り、スタッフや利用者が見える位置に掲示し、出来る限り実践できるよう、日々支援に反映させている。(理念はフロア中央の手洗い場に設置)	理念は職員が常に確認できるようリビングに掲示している。入社時に業務マニュアルを基に新人教育を行っており、理念についても説明している。利用者にとってホームが我が家となり、安心して暮らせるよう、職員は利用者一人ひとりに合わせた声掛けや見守りを行い、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームのお祭りや音楽会など開催するときには、ポスターを貼ったり、地域の回覧板などでお知らせをして、参加を呼び掛けている。年に2回の地域の清掃活動にも参加している。	町内会に加入し、回覧板を回している。ホーム主催の秋祭りには、案内を回したり、公民館や商業施設に協力を得てポスター掲示しており、地域住民と利用者との交流の機会となっている。フラダンスや舞踊等地域ボランティアの参加もある。また、職員は年2回地域清掃に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着運営推進会議には、毎回必ず入居者様ご家族や民生委員、地域包括支援センター、自治会長の方たちを招いて近況報告をしている。その折、指導や助言を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回入居者様ご家族や地域の方を招いて、ホームの行事等を報告し、フロアには生活の様子、レクリエーション活動等の写真を掲示している。	年6回規程メンバーで開催している。ホームの状況報告の他、意見交換ではメンバーからのさまざまな意見・要望やアイデアが議事録から確認できる。ホームは会議に参加し易い日や取り上げてほしい議題を尋ね、メンバーの希望を受け、AED操作方法の実践など、有効な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所(介護保険課、すこやか支援課等)に不明な点があった時には問い合わせをしたり、助言などを頂き積極的に連携を取っている。	ホームは各担当課に不明な点を尋ねたり、相談する他、地域のハザードマップ作成の際にはネットワーク会議に参加し、作成に協力する等、信頼関係を築いている。年1回介護相談員を受け入れており、利用者とは話す機会を設けている。また、職員は市から案内がある研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない、年に2回身体拘束の勉強会を行い、職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内で年2回身体拘束の研修を行う他、管理者が講師となりホーム内で勉強会を行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気付いた時にその都度職員間で注意し合っているが、管理者等は利用者に対する声掛けの仕方に工夫が必要と感じている。	利用者に対してスピーチロックとならないよう言葉の言い換え方を工夫・検討し、更なる勉強会の開催を含め、職員に周知することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止の研修会を受講しており、年に2回虐待防止の勉強会意を行っている。また、毎月の合同ミーティングで各ユニットの情報交換を行っている。		

グループホーム鳴見ヶ丘（ユニット1・2共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政他外部からの研修会に参加したり、事業所、ホーム内の勉強会を行い、職員が研修に学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び変更が生じた時は、契約書を基にして、十分な説明を行い、理解し納得して頂いた状態で契約をしている。意見や要望等も聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族にはアンケートを実施し意見や要望を聞く機会を設けたり、面会の際に意見や要望を聞き業務等へ反映させている。	年1回家族アンケートを行っており、食事メニューを知りたいという意見に献立表を送付するなど意見を反映している。面会時の要望・意見は職員が聞き取り管理者に伝える仕組みがある。これまでに言葉遣いや話し方について意見があり、謝罪するとともに勉強会を行い改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや委員会などで意見や提案を聞き、運営委員会の折に責任者が報告し、業務に反映させている。	毎月のグループホーム会議の他、社内の各種委員会に職員が所属し活動しており、業務改善に繋げている。居室の老朽化したタンスを新しくしたり、洗濯物を外に干せない時のために衣類乾燥機を設置するなど職員の要望を反映している。社内ではスーパーバイザーの仕組みを立ち上げところであり、今後活用が期待されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が抱えている問題や、勤務状況の把握、希望、要望等を聞き入れ、教育委員会等で検討し職場環境の改善や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より案内が来た時には、事務所内回覧板にて回覧し行きたいと思う研修会には積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やネットワーク会議に参加し、ネットワーク作りや同業者との交流会を通じ、そこで情報など勉強会にて報告しサービスの向上を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族様の話をよく聞き要望等があれば、要望に沿える様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様、ご家族様に不安を与えない様、施設の説明を十分に行い、要望や困っていることに耳を傾け信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや看護サマリーなど、情報提供表などにより本人様の状態を把握し、本人様に合った支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の要望を聞き入れ、出来る限りそれに沿うよう寄り添い、より良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には利用者様の状況を報告し、それに対する要望や意見、交流をしている。電話や毎月一筆箋にて近況報告を行っている。遠方の方などには写真を同封している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに友人や知人が来られたり、手紙や電話を取り次いだり、時にはご家族様との外出や、外泊を進めたり関係が途切れない様支援している。	利用者の幼馴染や以前住んでいた場所の自治会の人、近所の人との訪問がある。家族の協力を得て、盆、正月だけでなく、墓参り、法事、葬式、結婚式に出掛けたり、毎月自宅に一泊することを楽しみにしている利用者もいる。更には毎週自宅で過ごし戻るなど、家族の協力で馴染みの人や場と繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間を設け、皆様で楽しめる歌や、ゲームを企画し、また野外にドライブしたりしている。(水曜と金曜に2階と3階で合同レクを行っている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	私物など残っている時には連絡を取ったり、年賀状のやり取りや病院へのお見舞いも行っている。また行事等のお知らせも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や家族に話を聞き、希望に沿える様努めている。また、本人様ご家族様にも聞き取りを行い、これまでの暮らしの様子把握に努めている。	職員は利用者1対1になる入浴時やソファで寛いでいる時などに思いを聞き取っている。表出困難な場合は、答えやすい質問に変えるなど工夫している。今年度着任したケアマネージャーが、アセスメントシートを一新しており、新しい生活歴の加筆はこれからである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケアマネージャーにより、情報提供して頂き、把握に努めている。また、本人様、ご家族様にも聞き取りを行いこれまでの暮らしの様子把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に毎日記入している。その他にもカンファレンスやモニタリングを行い、現状の把握に努めている。また受診時には受診記録を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に必要な関係者と話し合ったり、意見交換をし介護計画を作成している。モニタリングについては、本人の担当職員も加わり介護計画に反映させている。これらを基にケアマネージャー、計画作成者が介護計画を作成している。	ケアマネージャーは、家族の訪問日に職員、栄養士を交えカンファレンスを実施し、本人・家族の要望を取り入れ、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに評価を行い、支援目標とサービス内容が明確な現状に合った計画となっている。急変時には見直しを行い、計画を立て直しており、計画に沿った支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録への記入、毎月のミーティングにて、職員間の情報を交換しケアの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度本人様、ご家族様の状況や意向に沿う様に努め、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

グループホーム鳴見ヶ丘（ユニット1・2共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や地域の清掃活動などを通して、近隣の人達と交流を図っている。音楽会やボランティア等を迎えてえ、コンサートを計画し楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの主治医や、利用者様のかかりつけ医を把握し、急変時にはすぐに連絡し指示を仰ぐようにしている。主治医は、休日、夜間、早朝も迅速に対応して頂いている。	本人・家族は利用開始時にかかりつけ医を継続するかホームの主治医に変更するかを選択できる。職員が受診支援を行っており、受診結果は介護記録に記載し、職員間で共有している。内科、歯科の往診もある。急変の場合には、主治医に指示を仰いだり、家族に確認を取り、通院介助を行う等適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携を密にし、日頃の様子を相談したり、体調不良や外傷があった時には、すぐに対応できるなど、適宜に健康管理や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族やドクター、ソーシャルワーカー等、医療関係者との情報交換により、早期退院が出来る様相談し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対する同意書を作成し、入所時に説明を行っている。また、看取り開始時には再度説明し、同意を得ている。ご家族様は、主治医と今後の事について話す場を設け、看取り診断書の依頼をする及び、計画作成に沿い、ケアにあたっている。	ホームは看取りに関する指針を作成しており、契約時に家族に説明し同意を得ている。段階に応じて、家族、主治医と話し合い、看取り支援開始時に再度同意書を得ている。昨年、事例があり、看取り介護計画書を作成し、家族と協力しホーム全体で支援に取り組み、看取り後は全員で振り返っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時などのマニュアルがあり、定期的に訓練や勉強会を行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月スタッフ全員で防火訓練を行い、スタッフ全員がスムーズに避難させることが出来るよう、体制を築いている。また、年に2回消防署立会いの元訓練を行っている。地震、風水害にも対応するマニュアルを作成し訓練している。	毎月1回消防計画表に沿って、災害訓練を実施している。年1回消防署立ち合いの下、デイサービスと合同の総合訓練の他、地震想定訓練も行っており、防災への意識が高い。ただし、地域からの訓練参加はなく、食料等非常時の備蓄品を確保しているが、利用者情報等の整備はこれからである。	デイサービスとの協力関係は構築しているものの、地域の協力は不可欠であるため、消防団の訓練への参加呼び掛けに期待したい。また、利用者情報等、非常時持ち出し品の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに十分注意し、自尊心を傷つけない様な声かけをしている。また、個人情報については入社時に職員に誓約書を取っており、言葉遣い、プライバシーの保護等の勉強会を行っている。	居室はドアとカーテンを使い分け、利用者のプライバシーに配慮している。帰宅願望のある利用者には本人に合った対応で落ち着くよう支援している。トイレ等失敗時は羞恥心に配慮しさりげない対応に努めている。個人情報に関する内容は家族に説明し、同意書を得ており、職員は守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、本人様が選択しやすいような声かけを心掛け、自己決定が出来る環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援計画を基に、個人のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容を利用したり、外出時にはTPOに合った身だしなみが出来るよう支援している。また、髭剃りや、爪切りなど気掛けて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に合った食事形態を提供している。また、毎月イベント食を企画し実施したり、給食カンファや思考調査も実施している。	食事は1階のデイサービスの厨房で調理し、炊飯やキザミなどは各ユニットで行っている。職員も同じ料理を食べており、検食担当は利用者の感想も含め毎日調理室へ報告している。給食委員会もあり、季節に合った献立を提供している。ユニットでは誕生会やイベント食などで利用者と一緒に楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人記録に記載するとともに、水分補給をこまめに行い、状況を見て高カロリードリンクを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが出来ない方には、ガーゼにて口腔ケアを行っている。また入れ歯の方は夜間洗浄剤をしようしている。毎食後必ず職員が付いて、口腔ケアを実施、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回排泄を確認し、個人記録に記入している。残存機能を生かし、個人に合った排泄パターンを心掛け、自立に向けた支援を行っている。	利用者の個人記録に排泄状況を記録している。職員は排泄の自立に向けた支援の重要性を理解しており、オムツ使用だった利用者がポータブルトイレにて排泄するよう改善したり、ポータブルトイレからトイレでの排泄へ改善したなど事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、記録している。朝食時には牛乳を提供したり、便秘が続く時には看護師へ伝え、下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3階の入浴をしているが、本人の体調、希望により増減することもある。	週2回を基本として、本人の希望に沿って入浴を支援している。職員は入浴剤を利用したり、歌を歌うなど入浴が楽しい時間となるよう工夫している。足湯に出掛けたり、ホーム内で足湯を提供することもある。入浴拒否の利用者が多く、職員は多様な工夫で入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理や体位変換を行い、気持ちよく休まれるよう支援している。また、眠れない方には温かい飲み物を提供したり、話を聞いたり等その時に合った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットや間違えがない様、十分注意をしている。また誤薬がない様ダブルチェックを必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や本人からの聞き取り等から、その人に合った気分転換が図れる様、無理強いをせず職員と一緒に行動する支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	野外レクを毎月企画し、季節感のある場所へ出かけている。	屋外へ出掛けるレクリエーションを企画し、毎月外出している。季節の花見や初詣、近隣へのドライブは利用者の楽しみとなっている。また、敷地内の庭で食事したり外気浴もあり、戸外の空気に触れる機会を設けている。家族の協力を得て、外食や初詣に出掛ける利用者もいる。	

グループホーム鳴見ヶ丘（ユニット1・2共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はすべて事務所で管理している。外出時など必要な時には使用できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば行っている。また家族からの取り次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、換気を行い清潔にしている。季節の花を飾ったり、毎月壁などに季節が分かるものを作成し飾っている。	リビングの窓から景色が見渡せ、利用者と職員がテーブルを囲み談笑している様子がみえる。手作りのカレンダー、花や七夕飾り等、日付や季節を感じられる飾りつけを行っている。毎日職員が掃除と換気を行っているものの、トイレには専用のスリッパやマットの設置がなく、衛生面に課題が残る。	ホームの衛生面を重視し、利用者、職員、訪問者がトイレを使用する際の他の空間との区別について、工夫・検討が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はすべて個室になっており、フロアにはソファを置き、テレビを観たり、CDを聴いたり職員が常にいるので会話がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様にとって使い慣れたなじみの物を持って来て頂いている。例えば本、テーブル、椅子、アルバム、仏壇など	利用者の使い慣れた物、好みの物の持ち込みは自由であり、家族写真や仏壇、テレビ、本、携帯電話など個性的な居室となっている。ポータブルトイレのカバーや目隠しのカーテン等プライバシーにも配慮している。職員は利用者が快適に過ごせるよう掃除や空調管理を行っており、利用者は自室でゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく、居室の入り口にネームプレートを掲示、イラストや造花などもドアに貼り、フロア、トイレ、浴室には手すりを設置している。		